

基金（貯金額）

積立基金残高（一般会計）
20億2,622万2千円
 （対前年度 1億1,047万3千円増）



12万8,575円
 （町民一人当たりの貯金）
 （令和3年3月1日現在 15,759人で算出）

積立基金について

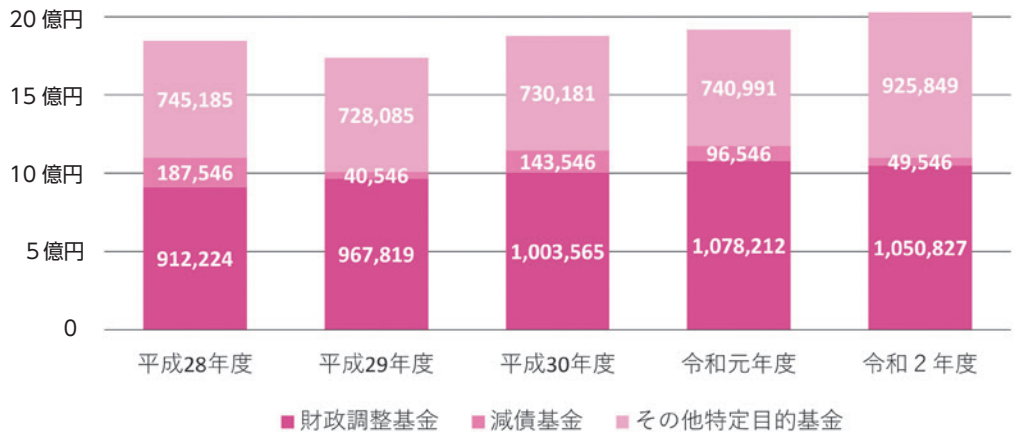
町における積立基金（貯金）の総額は、対前年度1億1,047万3千円の増となりました。

財政調整基金は、約2700万円程減少しましたが、建設後約30年が経過した役場本庁舎の大規模改修に備え、公共施設整備基金へ2億円を積み立てたことによるものです。

安定的な財政運営のため、基金については適切な取り崩しと、目的に応じた積み立てを行っており、今後も必要な財源確保に努めてまいります。

● 財政調整基金

地方公共団体が年度間の財源不均衡を調整するための基金で、財源が不足する年度や、災害などが発生した際の支出の増加に備え、財源に余裕がある年度に積み立てを行っております。



● 減債基金
 地方債の償還額の増加に備え、公債費が財政を圧迫することを防ぐ目的で設置されています。

● 特定目的基金
 特定の事業目的達成のために設置された基金です。

▼ 積立基金の推移（単位：千円）

利根町の財政力について

▼ 経常収支比率とは

地方公共団体の財政構造の弾力性を判断する指標です。

地方税、地方交付税および地方譲与税などの経常的な一般財源が、人件費、扶助費、公債費などの経常的経費にどの程度充当されているかを示しています。

この比率が高いほど財政構造が硬直化していることを表しています。

家庭で例えるならば、給料のように毎月決まって入る収入に対して、家賃（住宅ローン）、食費、光熱水費などの毎月必要な支出の割合になります。比率が低いほど、娯楽や趣味に使えるお金が増えることとなります。

地方公共団体でも、財政構造の弾力性が改善すれば、独自の施策を実施しやすくなります。

令和2年度においては、普通交付税や地方消費税交付金が増加したことにより、前年度と比較して5.3ポイント減少し財政構造の弾力性が改善しました。

▼ 財政力指数とは

地方公共団体の財政力を示す指標です。基準財政収入額（普通交付税を算定するために、標準的な状態で徴収が見込まれる税収入などを一定の方法により計算した地方公共団体の収入額）を基準財政需要額（同じく普通交付税を算定するために、地方公共団体が合理的かつ標準的な水準の行政を行い、また施設を維持するための需要額を一定の方法により計算した額）で割った数値の過去3カ年の平均値です。この数値が1.0を超えると普通交付税が交付されない不交付団体となります。

年度	財政力指数の推移	経常収支比率の推移
平成28年度	0.43	92.2%
平成29年度	0.43	93.3%
平成30年度	0.43	93.6%
令和元年度	0.43	93.8%
令和2年度	0.43	88.5%

▼ 財政健全化判断比率とは

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、地方公共団体は財政健全性に関する比率を公表することとされています。

各比率が早期健全化基準値を超えた場合は、財政健全化計画の策定などが義務付けられ、さらに財政再生基準値を超えた場合には、財政再生計画の策定などが義務付けられ、地方債の発行についても制限されるなど、厳しい財政運営を迫られることとなります。

利根町においては、全ての指標で黒字もしくは早期健全化基準以下の値となっており、将来の財政運営に支障が出る状況ではありません。

地方債について

町における地方債（借金）の残高は、対前年度3億1,313万2千円の増となりました。地方債発行額が償還額を上回ったことによるものです。

令和2年度における地方債発行の主な内容は、全額が交付税措置される臨時財政対策債が1億5,451万2千円、7割が交付税措置される過疎対策事業債が4億6,960万円となっています。

将来の財政運営に負担とならないよう、地方債発行に際しては、交付税措置の割合が高い起債を最大限活用しております。

● 臨時財政対策債

国から交付される地方交付税の財源不足を補うため、不足分の一部を地方自治体が借り入れを行う地方債のことで、元利償還相当額についてはその全額を後年度の普通交付税にて措置されます。

● 過疎対策事業債

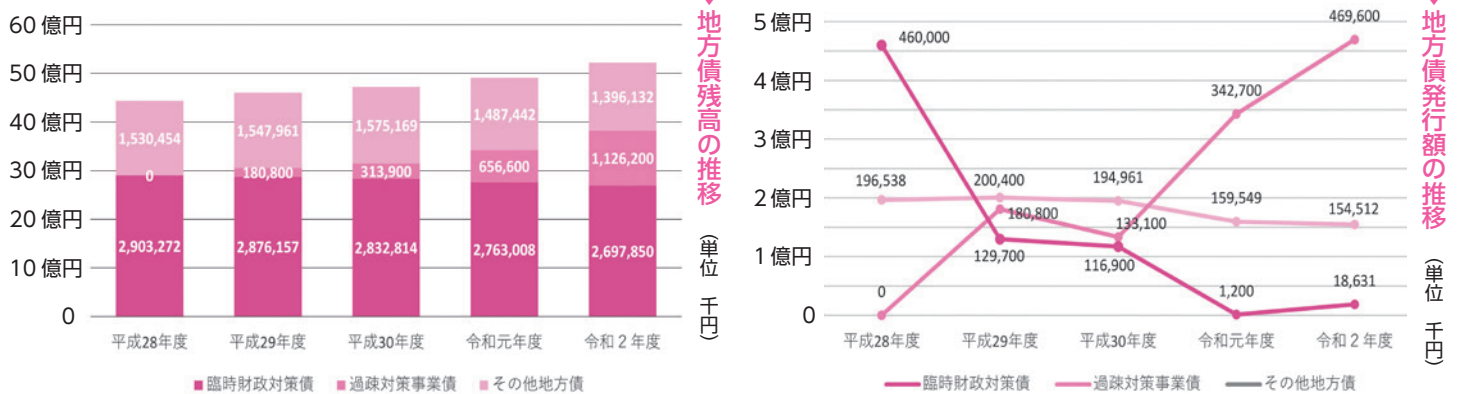
過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法により過疎地域指定を受けた市町村が特別に発行を認められた地方債で、元利償還金の7割が普通交付税で措置されます。

地方債（借金額）

地方債残高（一般会計）
52億2,018万2千円
 （対前年度 3億1,313万2千円増）



33万1,250円
 （町民一人当たりの借金）



● 実質赤字比率

普通会計の赤字額の標準財政規模（町税と普通交付税などで約38億3,500万円）に対する割合です。利根町は収支が黒字のため数値が示されません。

● 連結実質赤字比率

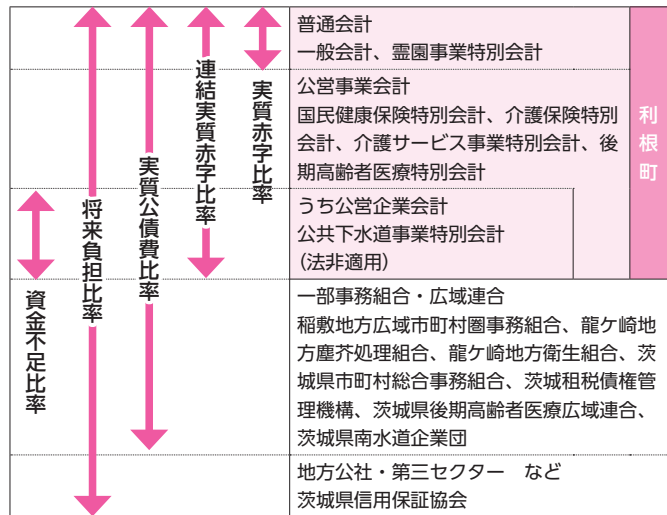
公営事業会計を含めた町全ての会計の赤字額の標準財政規模に対する割合です。利根町は全ての会計で収支が黒字のため数値が示されません。

● 実質公債費比率

普通会計が負担する公債費（地方債の元利償還金）や、公債費に準ずるものを含めた実質的な公債費相当額の標準財政規模に対する割合です。

● 将来負担比率

普通会計が将来負担することとなる地



指標	利根町の数値	基準	
		早期健全化	財政再生
実質赤字比率	(黒字)	15.00%	20.00%
連結実質赤字比率	(黒字)	20.00%	30.00%
実質公債費比率	1.8%	25.00%	35.00%
将来負担比率	—	350%	—
資金不足比率	(黒字)	経営健全化基準 20.00%	
公共下水道事業特別会計 (事業規模約2億3,800万円)			

▶ 問い合わせ先
 財政課 財政係 ☎68-2211 (内線353・355)